

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100675		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホームみんなのいえ(うめ)		
所在地	〒020-0851 盛岡市向中野二丁目55番6号		
自己評価作成日	令和6年12月1日	評価結果市町村受理日	令和7年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら20年目を迎えました。 介護に役立つ豆知識を掲載した広報「みんなのいえ通信」を近隣住民へ配布し、情報を発信しております。 広報にて、事業所の取り組みや利用者様の様子を地域の皆様に知っていただけるよう努めております。 利用者様、ご家族の思いを大切に、人生最後を安心して健やかに過ごせるよう看取りを含め対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、盛岡市の西南部に位置し、周囲には高等学校や小学校、幼稚園、クリニック、スーパー、公園などがあり、生活環境に恵まれている。コロナが5類に移行し幼稚園の運動会や地域の祭りへのお誘いがあったが、悪天候によりいづれも参加することはできなかったものの、コロナ禍以前の地域との交流が少しずつ復活し始めている。毎月利用者の生活の様子を写した写真や介護の豆知識を掲載した「みんなの家通信」を家族だけでなく地域にも配布し、事業所と地域との繋がりを大事にしている。何でも話し合える職場風土の下、理念にある「共に和み、共に生きる」を基本に、利用者の思いを受け止めながらゆっくりとした時間の流れを作り、落ち着いた生活を送れるよう支援に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有はしているものの、日常的に行う地域密着型サービスはほとんどない。月に一度スーパーマーケットへ買い物に行くレクリエーションはある。	「共に和み、共に生きる」の事業所理念を掲げ安心して生活が営めるよう礼節と尊厳をもって介護の実践に努めている。勤務経験が10年以上のベテラン職員が中心となり、利用者の身体機能低下に対応し、なんでも言い合える明るい職場環境の構築に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流する場面は多くない。	コロナ禍前まで行われていた地域との交流活動は戻っていないが、近隣の幼稚園から運動会の見学や地域の夏祭りへ招待された。いずれも天候不順で参加できなかったが、地域交流の兆しがみえてきている。町内会に加入しており「みんなのいえ通信」を毎月消防署、小学校、警察署のほか、40世帯ほどの周辺家庭に配布し、地域との繋がりを持ち続けられるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣へ月に一度施設の広報を配布し、活動内容等を紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、町内会長、複数の民生委員、地域包括支援センター職員、本部、複数の家族代表、複数の利用者代表の委員構成となっている。家族全員に案内を出しているが参加者が固定化していることもあり、持ち回りで参加していただくことを検討している。	運営推進会議の委員は事業所と地域をつなぐ大切な役割を担っております。関係者の委員就任について、引き続き検討されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と連携し、情報共有を行っている。	行政機関との窓口は管理者が担当し、申請等の手続きや様々な報告の際に電話等で相談している。地域包括支援センターからの案内で「スローショッピング」に参加して楽しんでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを目指している。但し、利用者と利用者家族の目線で改めて見直す必要も感じている。	全職員が参加し身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。資料を用いたり、YouTubeを活用するなど研修会は年2回行っている。入居時には重要事項説明書及び身体拘束を行わない指針により、利用者と家族に説明し同意を得ている。現在身体拘束対象者はいない。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。また、自身の家族に置き換える、利用者家族の立場になり、客観的な視点を忘れず、ケアに活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業や制度について、年に数回、研修・勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問があった際は都度説明して理解と納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ5類移行後、面会は緩和、運営推進会議で頂いた意見等は議事録の記録物に目を通して共有している。	運営推進会議に2名の家族代表が出席し意見や要望を伺っている。日頃の面会時や電話があった場合でも意見を伺うなど密に連絡を取り合い、家族との良好な関係を築けるよう努めている。毎月発行の「みんなのいえ通信」に個々の利用者の様子を写真で伝え、暮らしぶりを家族と共有し好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はユニット会議にて提案を聞くことをしている。個人面談を行っている。	勤務年数が長く何でも言い合える職場風土があり、毎月の会議において、様々な意見や提案を出してもらっている。職員は「ドキッとノート」等を活用しながら情報の共有を図るとともに周知に努めている。人事評価については、年2回所長との面談があり意見や提案を聞く機会とし、提案内容により本社に相談し、実現できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事をしやすいよう働く環境を整えつつ、備えている。社員一人ひとりに適切な仕事割り振っている。法人は処遇改善等の賃金整備やキャリアアップ制度の取り組みに努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響で研修の延期等もあって、研修の確保が出来ないこともあった。職員にとって必要な研修内容の情報提供に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会・訪問等の活動は行われなかった。リモートを通して同業者との交流や情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時安心して生活が送れるように不安、困難事項を早期に対応している。信頼関係を築けるように努めている。本人の希望に出来る限り寄り添うように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあったときだけではなく、面会時に家族に声をかけ、近況報告等を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	このところ、新しい利用者はいないが、必要に応じて、既存の利用者について、カンファレンスなどで、話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々楽しく過ごしてもらえるよう声かけをしたり、作業したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に訪れた際など、積極的に話しかけ、近況などを報告するなど心掛けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を家族に限定せずに受け入れて、長年の交友関係を継続できるような場となるように努めた。	ドライブ外出により、高松の池やチャグチャグ馬っこ等を見学をし、故郷訪問ドライブを企画して馴染みの場所を思い起こせるようしているが、加齢に伴いその意識は年々希薄になってきている。定期的に訪れる訪問看護師や美容師との馴染みの関係の維持に努めている。携帯電話を持ち、外部の方と話す利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時間を見て利用者が出来るような、手伝いなどを数人で行うようにしてその中で会話をするなどしてコミュニケーションをとった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時折、利用者を思い出し、現在どうしているかと考えることはあったが、具体的に何も出来なかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中などから、本人の希望を聞き取り、必要に応じて、家族に相談するなどして、対応している。	職員と意思疎通を図り自分の意向を伝えることが出来る利用者は、両ユニット合わせて3分の1程度である。日常の関わりの中での会話から、本人の思いや意向をさりげなく聞き出したり、生活状況を観察し申し送りノートを活用して変化や気づきを職員間で情報共有し、利用者に寄り添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて、過去の情報を見直したり、新しい情報は、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方・前晩の状態・1週間・1か月前の状態・何が出来ようになった・何が出来なくなった等の現状把握に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医から得た助言、訪問看護からの助言や情報を職員間で話し合い、見直しを行っている。ご本人・ご家族の意向が反映されているように作成している。	ケアマネジャーが入居時に作成した暫定介護計画に基づき、職員全員で利用者の様子を1週間モニタリングし、より利用者の実状に合わせた介護計画に修正している。その計画のもとで実践し、3か月後に見直しを行っている。通常の短期計画は3か月、長期計画が6か月で見直しを行っている。カンファレンスは毎月職員会議の中で行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録で生活の様子・食事量・水分摂取量・排泄等を記録している。申し送りノート・ドキッとノート・業務日誌を活用し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護・歯科衛生士による口腔ケア・歯科往診・主治医の往診など協力を頂きながら最期まで過ごせるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関係機関・消防署や交番など利用者様の情報を提供し安全安心な生活が出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は原則として家族対応であるものの、緊急時や家族様の対応が困難な場合は職員が対応している。受診の際は情報を提供している。	家族との協議を経て、利用者全員が入居前のかかりつけ医から事業所の協力医に変更している。協力医の訪問診療は月2回(1人は月1回)、歯科医の訪問診療は月1回である。特別科の受診は、原則家族の付き添いとなっている。訪問看護ステーションの看護師が毎週来訪し利用者の健康管理に当たっている。訪問看護記録を毎月家族に送付し、健康状況を知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっている。訪問の際は利用者様の状況を伝え助言を頂いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	新型コロナウイルスの関係もあり、面会に制限があるものの、利用者様の状態を伺い利用者様に負担なく退院出来るように、ご家族様や病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になる前の段階でご本人様・家族と話し合い、今後の方針を共有するようにしている。	訪問看護ステーションと24時間連携し、ターミナル期の受け入れについて相談に応じることが出来る旨を、入居の際に利用者家族に説明している。治療が必要となって入院しそのまま退居となる利用者が多いが、重度化の場合は、特養などへの転居を前提とはせず、家族の希望があれば看取りまで支援しており、令和4年度から5年度には2人の看取りを行っている。看取り後は職員間で振り返りの機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の他に、訪問看護・主治医と連携し、普段から情報共有をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	シチュエーションを変えながら年2回(火災)、年1回(水害)の避難訓練を行っている。	火災による避難訓練を年2回、夜間想定で実施している。夜間は1人夜勤のためもう一つのユニットから応援を受け2人で対応している。消防署との連携は随時行っている。水害時の避難訓練を年1回実施している。水害時の避難場所を検討し、盛岡市から一時避難所として許可を得ることができた。BCPIは策定済みである。備蓄は本社で準備している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段は敬語で話すようにしている。言葉が伝わりづらいときは短い言葉で簡潔に話すようにしている。	利用者一人ひとりが自由に、いやなことはさせないようにをモットーに支援している。入浴やトイレ誘導の際は「トイレ(お風呂)行きましょ」の言葉を使わず、「こちらへどうぞ」などと声掛けを工夫している。スピーチロックについては意識し注意して声掛けを行うよう努めている。	
----	------	--	--	---	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、思い出や希望をくみ取り、なるべく自己決定してもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし、事故の無いようなるべく希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服が汚れたらその都度着替えるようにしている。衣替えも行いその季節に合った服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食前に口腔体操を行っている。利用者の高齢化に伴い、職員と一緒に出来る食事の準備や片付けが段々と減っているものの、出来る範囲で楽しめるよう支援している。	朝食と夕食の副食は真空パックを冷凍したものを利用し、昼食のみ職員が交代でユニット毎に調理している。利用者は、テーブル拭きやおしぼりたたみなどを行っているが、担える利用者が年々少なくなっている。夏祭りの焼きそばや誕生会のケーキは職員が手作りし、敬老会は仕出し弁当、大みそかは寿司を提供するなど行事食を工夫し、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が進まない方には、食形態を変えたり、声をかけたり介助を行っている。また、一日の栄養・水分の確保を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに毎食後の口腔ケアを行っている。入居時に口臭があった方も改善されている。また、定期的に歯科医による口腔ケアを受けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、定時のトイレ誘導・介助にて排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立している方は2名いるほか、基本的にはリハビリパンツを使用している。夜間にポータブルトイレを利用している方は2、3人である。尿量に応じて紙パンツの種類を変えている。排便については水分補給に様々な飲み物を提供し自力での排泄に努めている。便秘の利用者については、個々の排泄状況を把握し、下剤を適量投与している。人感センサー等を6名が利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄を記録し、パターンを理解したうえで、服薬や水分補給で個々に応じた予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を見ながら、入浴を楽しんで頂けるように声掛け・支援を行っている。	概ね週2回、日曜日を除いた午前中に入浴している。介護度が進んだ利用者の入浴は職員2人で行なっている。季節を感じる菖蒲湯などを浮かべ寛ぎと楽しみの時間となっている。同性介護を希望する利用者には対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活の質(QOL)に合わせ、休息の場を提供しつつ、安心して眠れるように工夫・支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方目的・用法・用量の理解に努めている。また、服薬の支援を行うと共に、症状の変化を把握・確認することに関しても同様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一年を通して季節の行事や誕生日会・食事会・ドライブ等を行うことで喜びを感じ、気分転換できるよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出は可能であるが、出来るだけ日常生活に近い形で外出できる「スローショッピング(スーパーでの買い物)」を取り入れている。	日常の中で両ユニットをつなぐ木製のベランダで外気浴やおやつを食べるなど、気分転換が図れるようにと思っているが、暑い日が続き実施できない日々が多かった。季節の折々にドライブをし、花見やチャグチャグ馬つこなどの見学への支援を行っている。またスローショッピングを取り入れ、利用者のおやつを購入など楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や盗難の防止のため、お金の所持はされないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は届くことは殆どありません。 一部の方に年賀状が届きます。 その都度本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特別に刺激を感じるようなものは置かないようにしています。また、季節感は掲示物などで表現しており、その都度気づいて頂ける方もいます。	小上がりを備えた居間兼食堂の広いホールは、エアコンとパネルヒーターで室温が快適に管理され、天窓からは明るい陽が差し込み、毎日ラジオ体操やホール内歩行の場ともなっている。食卓を兼ねたテーブルとソファが備えられており利用者はテレビ鑑賞して過ごしている。ホール内の装飾は季節に応じて職員が飾りつけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席では各人座る席を決めており、いつも通りの並びで落ち着けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み可能の方は以前から使用している時計や家具などを持参して頂いています。母の日等の記念日や誕生日プレゼント等も配置しています。	居室には、ベッド、洗面台、クローゼット、パネルヒーター、エアコンが備え付けられている。利用者のお好みの写真を飾ったり、仏壇やテレビを持ち込んでいます。居室内はすっきりと整理整頓され居心地がよく過ごせる空間となっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームみんなのいえ(うめ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	季節ごとにその時期に関係するものを掲示するようにしています。カレンダーも大きめのものを掲示して見やすくしています。		